

第19回岡山県障害者スポーツ大会「輝いてキラリンピック」  
個人競技参加申込書 記入要領

様式第1-1号～第1-6号の記入要領

1 はじめに

大会当日、各会場にテレビ、新聞等の報道機関が来場することが予想され、選手の氏名(選手団名を含む)、写真、映像がテレビ、新聞、ホームページ等で報道されることがあります。また、大会プログラムには、障害区分(障害区分名)、年齢区分、氏名、選手団名等を掲載しますので、このことを了承の上、申し込んでください。参加申込書類が提出された時点で、上記の掲載について同意があったものとして取り扱います。

なお、申込時に提出していただいた書類は、第19回岡山県障害者スポーツ大会に関する業務にのみ使用します。

2 申し込みにあたって

(1) 「個人競技参加申込書」の記入の際は、この記入要領に従ってください。

(2) 記入にあたっては、黒ボールペンを使用し、文字は楷書で、数字はアラビア数字(0、1、2、・・・)で正確かつ丁寧に記入してください。

(3) 出場できる競技

出場できるのは、次の6競技のうち1競技のみです。

- ① 陸上競技(身体障害、知的障害のある方が参加できます。)
- ② 水泳(身体障害、知的障害のある方が参加できます。)
- ③ アーチェリー(身体障害のある方(視覚障害のある方を除く)が参加できます。)
- ④ 卓球(身体障害、知的障害および精神障害のある方が参加できます。)
- ⑤ フライングディスク(身体障害、知的障害のある方が参加できます。)
- ⑥ ボウリング(知的障害のある方が参加できます。)

(4) 「個人競技参加申込書」

申込書は、競技ごとに6種類に分かれています。選手1名につき出場を希望する競技の申込書を使用してください。(選手1名につき1枚使用してください)

- |             |         |
|-------------|---------|
| ① 陸上競技      | 様式第1-1号 |
| ② 水泳        | 様式第1-2号 |
| ③ アーチェリー    | 様式第1-3号 |
| ④ 卓球        | 様式第1-4号 |
| ⑤ フライングディスク | 様式第1-5号 |
| ⑥ ボウリング     | 様式第1-6号 |

※複写となっていないので、必ず控(コピー)をとっておいてください。

(5) 申込書の構成

様式第1-1号

第19回岡山県障害者スポーツ大会 個人競技参加申込書



1 陸上競技

①選手団名	選手団番号		個人番号	
②フリガナ	④性別		1 男 2 女	保護者氏名
③氏名	生年月日		⑤年齢	満 歳 (上段)
現住所	〒		TEL	FAX
身体障害者手帳	都道府県第 号 第 種 級		障害名(手帳記載のとおり)の全文	
	障害の原因となっている傷病名等(脳性麻痺・脳出血・二分脊椎など)		選手の基本情報を記入します。	
療育手帳	有 (A・B) 無 (申請中・取替の対象に達する)*の方は、施設名・学校名( )		視覚に障害のある方は必ず記入。 矯正できないときは「不可」に○	視眼 視力 右 左 視野 右
⑥障害の分類	1 肢体 2 視覚 3 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害 4 知的 5 内部			
⑦重複障害	0 なし 1 肢体 2 視覚 3 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害 4 知的 5 内部 6 精神 7 その他( )			⑧全国大会出場希望 1有 2無

上肢	下肢	体幹	その他
1 手部切断	4 片下腿切断または、片下腿不完全	9 体幹	16 四肢麻痺で車いす使用
2 片前腕切断または、片上腕切断	5 片大腿切断または、片大腿不完全	10 第6頸髄まで残存	17 けつて移動
3 両前腕切断または、片前腕および片上腕切断	6 両下腿切断	11 第7頸髄まで残存	18 片上下肢で車いす使用
4 両上腕切断または、両上肢不完全	7 片下腿および片大腿切断	12 第8頸髄まで残存	19 上肢で車いす使用
5 両上腕切断または、両上肢完全	8 両大腿切断または、両下肢不完全	13 下肢麻痺で座位バランスなし	20 その他定不能
6 片下腿切断または、片下腿不完全	9 両大腿切断または、両下肢完全	14 下肢麻痺で座位バランスあり	21 上肢に不随意運動を伴う
7 片大腿切断または、片大腿不完全	10 両大腿切断または、両下肢完全	15 その他の車いす	22 その他定可能
8 両大腿切断または、両下肢完全			23 電動車いす常用
			24 視力0から0.01まで
			25 その他の視覚障害
			26 聴覚障害
			27 知的障害
			28 ぼうこう又は直腸機能障害

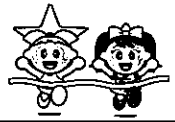


希望種目	種目番号	種目名
自己記録		
身体	知的	種目番号・種目名
別表	☆	1 50m
参照	☆	2 100m
	☆	3 200m
	☆	4 400m
	☆	5 800m
	☆	6 1500m
	☆	7 スローム
	☆	41 4×100mリレー



3 各項目の記入事項

【各競技共通事項】



1 陸上競技

①選手団名			選手団番号			個人番号		
②フリガナ			④性別 1 男 2 女	保護者氏名	参加者が18歳未満の場合のみ			
③氏名					印			
生年月日	大正・昭和・平成	年	月	日	⑤年齢	満	歳	(平成31年4月1日現在)
現住所	〒			TEL	-	-		
				FAX	-	-		
身体障害者手帳	交付手帳	都道府市区	第 号	第 種	級	障害名(手帳記載のとおり全文)		
	障害の原因となっている傷病名等(脳性麻痺・脳出血・二分脊椎など)							
	視覚に障害のある方は必ず記入。 矯正できないときは「不可」に○		裸眼	視力	右	左	視野	右
		矯正後	視力	右	左	視野	右	左
療育手帳	有 (A・B) 無 (申請中・取得の対象に達しない) *の方は、施設名・学校名( )							
⑥障害の分類	1 肢体 2 視覚 3 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害 4 知的 5 内部							
⑦重複障害	0 なし 1 肢体 2 視覚 3 聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく機能障害 4 知的 5 内部 6 精神						⑧全国大会出場希望	
						7 その他( ) → 運動制限の有・無		1有 2無

選手団一覧表の名前・番号

「競技順」最後に入れてください

(1) 「①選手団名」「選手団番号」「個人番号」

選手団名及び選手団番号は、別表「選手団一覧表」を確認の上、選手団名及び該当番号を記入してください。

個人番号は、個人競技に参加するすべての選手を次の競技順に並べてください。(同一競技内での順番は、自由です。)

(順) 陸上競技 → 水泳 → アーチェリー → 卓球 → フライングディスク → ボウリング  
※ボウリングは通常のみです。

(2) 「②氏名」、「③フリガナ」

選手の氏名を上段にカタカナで、下段に漢字で記入してください。  
なお、大会記録等をコンピューターで管理するため、大会プログラム等の氏名の漢字については、旧字・異体字等には対応できない場合があります。

〈記入例〉

オカヤマ	リクオ
岡山	陸雄

(3) 「④性別」

該当する番号を「○」で囲んでください。

(4) 「保護者氏名」

平成31年4月1日現在で、18歳未満の方は、保護者の記名、押印(認印で可)を

してください。

なお、施設の選手団において、特別の理由がある場合（※保護者の同意が得られていることを条件に）、施設長の記名、押印でも可能とします。（施設長等の施設での役職もご記入ください）

(5) 「⑤生年月日・年齢」

生年月日、平成31年4月1日現在の満年齢を記入してください。  
別紙年齢早見表を参考にしてください。

(6) 「現住所」

郵便番号、現住所、電話番号を記入してください。現住所は市町村名からでかまいません。なお、FAXがあればFAX番号も記入してください。現住所は、施設や学校の所在地ではなく、実際に居住している住所（住民票があるところ）としてください。

(7) 「身体障害者手帳」

- ① 手帳に記載されている「手帳の交付都道府縣市（区）名」「手帳の交付番号」、「種別・等級」を記入してください。
- ② 手帳に記載してある障害名の全文を省略せずに記入してください。
- ③ 手帳に記載してある障害名だけでは、各個人競技障害区分が正確に判断できない場合がありますので、障害の原因となっている傷病名（外傷、病気）等を具体的に記入してください。
- ④ 視覚に障害のある方で、陸上競技、水泳、卓球、フライングディスクを希望する方は、手帳に記載されている左右それぞれの裸眼及び矯正後の視力並びに視野を記入してください。矯正できない時は「不可」を「○」で囲んでください。

(8) 「療育手帳」

知的障害者部門に出場の方のみ「有」又は「無」を「○」で囲んでください。

また、重複障害で知的障害（療育手帳有）の方は「有」を「○」で囲んでください。

- ① 「有」に該当するのは、次のいずれかの方です。

ア 既に療育手帳の交付を受けている方

イ 参加申込み時点で療育手帳の交付を申請中の方

- ② 「無」に該当するのは、次の方です。

ア 療育手帳の交付を受けていないが、取得の対象に準じる障害のある方

※準じる障害とは、大会実施要項「7参加資格」に該当する学校や施設名をご記入ください。場合により、証明をお願いすることがあります。

※身体障害のみで、療育手帳をお持ちでない方は○印は不要です。

(9) 「⑥障害の分類」

「主たる障害」を「1」から「5」(または「4」)まで中から一つ選び、その番号を「○」で囲んでください。

なお、アーチェリー、ボウリングでは取消し線で消してある障害の分類の方は、出場することができません。

※「5内部」は、「ぼうこう・直腸障害」の方のみです(一部対象でない競技があります)。「ぼうこう・直腸障害」以外の内部障害の方は、他に重複する障害(肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害)をお持ちの場合は、そちらを「主たる障害」としてください。

(10) 「⑦重複障害」

「⑥障害の分類」で記入した障害のほかに、重複する障害があれば、該当するものを「○」で囲み、「7その他」の場合は( )内に障害名を記入してください。

※1. 重複障害が「1～3」および「5、7」に該当する方は、「身体障害者手帳」欄に(7)を参考にその内容をご記入ください。「5」の内部障害は、「ぼうこう・直腸障害」です。

※2. 重複障害が「4知的」に該当する方は、(8)の「療育手帳」の欄の「有」に○がついているかご確認ください。

※3. 重複障害で、精神保健福祉手帳をお持ちの方は、「6精神」を該当する方は、「○」で囲んでください。

※4. 重複する障害が「7 その他」の方は、障害名を記入してください。「心疾患」に該当する方は、運動制限について主治医に確認した上で、運動制限の有・無の該当する方に「○」を付けてください。

※「その他」は、ぼうこう・直腸障害以外の内部障害で手帳をお持ちの方が該当します。

(11) 「⑩全国大会出場希望」

個人競技の選手としての全国大会の出場希望の有無について、該当する番号に「○」を付けてください。

※印がない場合は「2 無」として処理します。

フライングディスク競技で、アキュラシーかディスタンスどちらか1種目のみ出場する場合は、「2 無」に該当となります。

【競技別事項】

競技ごとに説明しています。必要な競技の記載部分を参照してください。

「⑩障害区分」は、別紙（参考）障害区分の解説・〔障害区分の説明〕を参考に、主たる障害の該当する区分を1つ選び、番号を「○」で囲んでください。

1. 陸上競技

(1) 「⑩障害区分」

主たる障害（「⑥障害の分類」で記入した障害）の該当する区分番号を1つ選び、番号を「○」で囲んでください。

⑩ 障害区分				
上肢	1	手部切断 片前腕切断または、片上肢不完全 片上腕切断または、片上肢完全	脳血管性障害・脳外傷等	16 四肢麻痺で車いす使用
	2	両前腕切断または、 片前腕および片上腕切断 両上肢不完全	脳血管性障害・脳外傷等	17 けつて移動
				18 片上下肢で車いす使用
3	両上腕切断または、両上肢完全	脳血管性障害・脳外傷等	19 上肢で車いす使用	
下肢	4	片下腿切断または、片下肢不完全	視覚障害	20 その他走不能
	5	片大腿切断または、片下肢完全		21 上肢に不随意運動を伴う 走可能
	6	両下腿切断		22 その他走可能
	7	片下腿および片大腿切断 両下肢不完全		23 電動車いす常用
8	両大腿切断または、両下肢完全	24 視力0から0.01まで	25 その他の視覚障害	
体幹	9	体幹	言語障害・聴覚障害・平衡機能障害・音声機能障害	26 聴覚障害
車椅子常用・使用以外で	10	第6頸髄まで残存		
	11	第7頸髄まで残存		
	12	第8頸髄まで残存		
	13	下肢麻痺で座位バランスなし		
	14	下肢麻痺で座位バランスあり		
15	その他の車いす	内部障害	28 ぼうこう又は直腸機能障害	

「⑥障害の分類」で選択した障害が  
 「1 肢体」→ 1～2 3から選択  
 「2 視覚」→ 2 4～2 5から選択  
 「3 聴覚・平衡、音声・言語、  
 そしゃく機能障害」→ 2 6  
 「4 知的」→ 2 7  
 「5 内部」→ 2 8  
 となります。

(2) 「障害区分確認事項」

障害区分が1～2 3の方は、障害区分確認事項の該当する箇所を「○」で囲み、該当事項を必ずご記入ください。

※肢体不自由の方は、⑩の障害区分を決める場合は、障害区分確認事項に記入後に、資料2を参考にしようお願いします。

⑩障害区分確認事項	
障害区分1～23の方は、該当する箇所に○印を付け、該当事項を必ずご記入ください。	
ア	切断(部位 )
イ	脊髄損傷 頸髄損傷(四肢麻痺・対麻痺) 頸髄損傷で座位バランス(良好・不良) 胸髄損傷で座位バランス(良好・不良) 腰・仙髄損傷で座位バランス(良好・不良)
ウ	脳原性麻痺で、上肢に中等度以上の不随意運動や協調性低下が(ある・ない)
エ	脳原性麻痺で、上肢の関節可動域に制限が(ある・ない)
オ	ウ・エの障害で、走ることが(可能・不可能)
カ	イ・ウ・エ以外の車いす使用(二分脊椎や骨・関節機能障害、切断など)の方で座位バランス (良好・不良)
キ	日常生活で使用している補装具(装具・車いす・杖など)がある。 ・常用の補装具名[ ] ・常用ではないが併用する補装具名[ ]
ク	障害区分4・5・7・8(切断は除く)で片足または両足で補装具なしで立つことが (可能・不可能)

切断(欠損)部位を記入してください。(手部・前腕・大腿など)

※ イ～カおよびクは、( )内の該当する方を「○」で囲んでください。

キに該当する方は、補装具の種類を記入してください。

常用とは、日常生活で常時使用、屋外や長距離等に補装具(装具や車いすなど)を使用する場合は、常用ではないがの方にご記入ください。

## 《設問の解説》

### アについて

切断部位を記入してください。障害区分1～8(切断・機能障害)を確認する際の参考とします。

※「切断・欠損」の方で、手帳障害名が「機能障害」と成っていることがあります。切断の場合はアの( )に部位を記入してください。

### イについて

障害区分10～14(脳原性麻痺以外の車いす使用者)を確認する際の参考とします。

※ 座位バランスの見方は、＜参考＞障害区分の解説・〔障害区分の説明〕を参考にしてください。「へそ」の位置の知覚レベルの有無が一つの判断となり、背もたれの無い座位の状態で両手の支えなく座ることができる方は、バランスは「良好」となり、障害区分は「座位バランスあり」となります。支えの必要な方は、バランスは「不良」となります。座位バランスにより該当するほうを「○」で囲んでください。

### ウ、エについて

障害区分16～22脳原性麻痺(脳性麻痺、脳血管障害、頭部外傷、その他脳に起因する障害)の方は記入してください。

●「ウ」の「上肢に中等度以上の不随意運動や協調性低下」とは、自己の意志に反して勝手に上肢が動いたり、上肢は動くが運動のコントロールができず、目的どおりに動かせないなど、日常生活に著しい障害があることをいいます。

●「エ」は、上肢の関節に著しい制限があり、日常生活に著しい障害があれば「ある」を、それ以外は「ない」を「○」で囲んで下さい。

※手帳の障害名に四肢障害のある方で、車いすを自分で操作ができず、日常生活に介助の必要な場合は「著しい障害」が「ある」となります。

## オについて

走れるかどうか、障害区分20～22（脳原性麻痺）を区分する際の参考とします。

※投てきで助走が可能な場合は、「走可能」

## キについて

日常生活で使用している補装具があれば、記入してください。

ある場合は、常用の補装具と常用ではないが併用する補装具を分けて記入してください。

※装具と杖を使用するが、長距離は車いすを使用する方は、

- ・常用 杖・短（長）下肢装具
- ・併用する補装具 車いす

運動機能、移動能力等を把握するための参考とします。

## クについて

障害区分4・5・7・8の切断者以外の方の片足または両足で体重支持ができるかどうかにより、下肢完全と不完全の区分の参考とします。

※長下肢装具がないと、立つこと（体重支持）ができない場合は、不可能となります。

片側だけの場合は「片下肢完全」、両側とも長下肢装具が必要な場合は「両下肢完全」となります。

## 【参考】

- ※ 1 手帳に「体幹機能障害、四肢体幹機能障害」等の記載があり脳原に原疾患がある場合には、肢体3（障害区分16～22）になります。
- 2 車いすを使用している脳原性麻痺で手帳に「四肢体幹機能障害」等の記載がある場合で、設問ウ、エが「ある」場合は区分番号16、「ない」場合は区分番号19の可能性ががあります。
- 3 設問オが「不可能」な場合は、競技中の杖や下肢装具の使用に関係なく区分番号20の可能性ががあります。
- 4 設問オが「可能」、設問ウが「ある」場合は、区分番号21の可能性ががあります。
- 5 設問オが「可能」、設問ウが「ない」場合は、区分番号22の可能性ががあります。
- 6 片麻痺の方で、日常動作において、片側の upper limb・lower limbで車いすを操作している場合の区分番号は18となります。
- 7 脳原性麻痺の方で、両 upper limbの障害が重度のため両 lower limbまたは片 lower limbのみで車いすを操作している場合の区分番号は17となります。

## (3) 「①出場種目」

資料1 大会実施要項 別紙1「競技・種目及び障害・年齢区分」（以下「大会競技・種目」という）から選び、希望種目欄に種目名、種目番号及び自己記録を記入してください。出場できる種目は、障害区分により異なりますので〈別表〉で確認してください。



また、リレー種目は、男女混合で、各選手団1チームでお願いします。申込は陸上競技に参加する選手で編成し、補欠を含み6名以内とし、「リレー種目参加申込書」(様式A)に記入してください。申込者6名、また当日の走者4名は必ず混合となるよう編成してください。

⑪ 出場種目									
希望する種目を身体障害の方は<別表1>、知的障害の方は☆印の中から選び、種目番号、種目名と自己記録をご記入ください。									
		種目番号	種目名	リレー希望					
希望種目									
自己記録									
トラック種目	別表1参照	身体	知的	種目番号・種目名	跳躍種目	身体	知的	種目番号・種目名	
		☆		1 50m		☆		21 走高跳	
		☆		2 100m		☆		22 立幅跳	
		☆		3 200m		☆		23 走幅跳	
		☆		4 400m					
		☆		5 800m		投てき種目	☆		31 砲丸投
		☆		6 1500m			☆		32 ソフトボール投
			7 スラローム	☆			33 ビーンバッグ投		
	☆		41 4×100mリレー			☆		34 ジャベリックスロー	

種目を選び、種目番号および種目名を記入してください。番号は下の表から選んでください。

リレーに出場希望は「41」と記入してください。

自己記録を記入してください。

<自己記録の記入例>

時間の記入例 15分21

距離の記入例 35m47cm

※1/100秒の部分は2桁で記入すること。

例) 8秒05 → 8秒05

8秒5 → 8秒50

(4) 「⑭走幅跳の踏切板の位置 ( 1m ・ 2m )」

※走幅跳びで踏み切る位置(踏み切り板)が砂場から1mか2mか選ぶことができます。通常は2mです。1mの場合は、白色の粘着テープ等で踏み切り板をつくります。

希望する距離を「○」で囲んでください。

(5) 「⑫競技中に使用する補装具」

「有」「無」のいずれかを「○」で囲んでください。「有」の方は、該当する番号を「○」で囲んでください。

※身体障害以外でも補装具を使用する方が増えていきますので、陸上競技申込者全員に記入をお願いします。ここでは、補聴器は補装具に含みません。

⑫ 競技中に使用する補装具等 (有・無)	
有・無を、必ず記入してください。「有」の方は、次の中から選び○印をつけてください。	
歩行杖等	1 杖                    2 松葉杖(1本)                    3 松葉杖(2本) 4 クラッチ(1本)                    5 クラッチ(2本)
車いす等	6 両手駆動                    7 片手駆動 8 足駆動(前向)                    9 足駆動(後向) 10 片上下肢駆動                    11 電動(時速 4.5Km) 12 電動(時速 6.0Km) * 電動車いす機種・型式名(                    )
義肢・装具等	13 (義肢・装具名                    )

競技中に使用する補装具の有・無を記入してください。

移動中のみ車いすや杖を使用するが、投げる時は立ったり、杖は使用しない場合は「無」です。

機種名をご記入ください。

義足や装具名をご使用の方はご記入ください。

大腿義足・下腿義足・長下肢装具・短下肢装具など

電動車いすは、JIS T9203（電動車いすの日本工業規格）に定めたものの使用となります。補装具として使用する場合、「低速用（時速 4.5km 以下）」の場合は「11」、「中速用（時速 6.0km 以下）」の場合は「12」を「○」で囲んでください。

また、時速の確認のため、使用している電動車いすの機種・型式名をご記入ください。

なお、義肢・装具等を使用している方は、使用する補装具の名称を 13（ ）内に記入してください。

(6) 「⑬特記事項」

該当する番号を「○」で囲んでください。 いずれか一つを選択してください。

- 特記事項がない場合は「1 特になし」を「○」で囲んでください。
- 手話と要約筆記の希望については、いずれか一つを選択してください。
- 介助者の入場を希望される方は「その理由」を具体的に記入してください。

※H 2 5 の競技規則の改正から、申請対象の区分が設けられています。

⑬ 特記事項	
下記の項目の該当する番号に必ず○印を付け、必要事項を記入してください。	
1 特になし	2～6に該当しない場合は、「1」の特になしに○を付けてください。  介助者の入場を希望される方は「その理由」を具体的に記入してください。(陸上競技実施要領参考及び下記を参考にしてください)
2 障害区分24又は25の競走競技(50m走以外)で、伴走者を同伴	
3 障害区分24又は25の投てき・跳躍競技(立幅跳以外)で、競技役員による による声や音響の援助を希望	
4 聴覚、音声・言語等に障害のある方で手話通訳を希望	
5 聴覚、音声・言語等に障害のある方で手書き要約筆記を希望	
6 競技規則に基づき競技場内に同伴する介助者の入場を希望 (その理由)	
_____ _____	

介助者の申請対象となる障害区分

《全国障害者スポーツ大会競技規則の解説 第2部 第1章 陸上競技より》  
 第5節 介助者の役割  
 2 申請対象となる障害区分  
 原則として、区分番号 10、16、17、23、24、25 場合によっては障害区分18、27が申請対象となる。いずれの場合も申し込み時に理由を添えた申請が必要である。

その他

「電動車いす常用」とは、原則として四肢体幹機能障害等により日常的に電動車椅子を使用している者の区分です。

## 2. 水泳

### (1) 「⑩障害区分」

主たる障害（「⑥障害の分類」で記入した障害）の該当する区分番号を1つ選び、番号を「○」で囲んでください。

⑩ 障害区分									
主たる障害の該当する番号1つのみに○印を付けてください。									
上肢	1	手部切断	脳原性麻痺	17	四肢麻痺(車いす常用) 上肢に著しい不随意運動を伴う走不能				
	2	片前腕切断または、片上肢不完全		18	両下肢麻痺 上肢に軽度の不随意運動を伴う走不能				
	3	片上腕切断または、片上肢完全		19	片側障害で片上肢機能全廃				
	4	両前腕切断または、両上肢不完全		20	その他の片側障害で走不能				
	5	両上腕切断または、両上肢完全 片前腕および片上腕切断		21	その他				
下肢	6	片下腿切断または、片下肢不完全		視覚障害	22	浮具使用			
	7	片大腿切断または、片下肢完全			23	視力0から0.01まで			
	8	両下腿切断または、両下肢不完全			24	その他の視覚障害			
	9	両大腿切断または、両下肢完全 片下腿および片大腿切断			聴覚障害	25	聴覚障害		
上下肢	10	片上肢切断および片下肢切断 片上肢不完全および片下肢不完全	知的障害					26	知的障害
	11	多肢切断または、 片上肢完全および片下肢完全 両上肢不完全および両下肢不完全							
体幹	12	体幹							
す 常 外 用 で 車 い 痺	13	第7頸髄まで残存	し 語 聴 機 能 障 害 ・ 平 衡 機 能 障 害 ・ 機 能 障 害 ・ 機 能 障 害		25	聴覚障害			
	14	第8頸髄まで残存							
	15	下肢麻痺で座位バランスなし							
	16	下肢麻痺で座位バランスあり							

「⑥障害の分類」で選択した障害が

「1 肢体」→1～22 から選択

「2 視覚」→23～24 から選択

「3 聴覚・平衡、音声・言語、  
そしやく機能障害」→ 25

「4 知的」→ 26  
となります。

(注)内部障害の方は水泳には  
出場できません。

### (2) 「障害区分確認事項」

障害区分 1～22 (肢体 1～4) の方は、障害区分確認事項の該当する箇所を「○」で囲み、必要事項を記入してください。

障害区分確認事項	
障害区分1～22の方は、該当する箇所に○印を付け、該当事項を必ずご記入ください。	
ア	切断(部位 )
イ	脊髓損傷 頸髄損傷(四肢麻痺・対麻痺) 頸髄損傷で座位バランス(良好・不良) 胸髄損傷で座位バランス(良好・不良) 腰・仙髄損傷で座位バランス(良好・不良)
ウ	脳原性麻痺で、上肢に中等度以上の不随意運動や協調性低下が(ある・ない)
エ	脳原性麻痺で、上肢の関節可動域に制限が(ある・ない)
オ	ウ・エの障害で、走ることが(可能・不可能)
カ	脳原性麻痺の片麻痺でストロークは(両上肢・片上肢)で行う
キ	イ・ウ・エ以外の車いす使用(二分脊椎や骨・関節機能障害、切断など)の方で座位バランス (良好・不良)
ク	日常生活で使用している補装具(装具・車いす・杖など)がある ・常用の補装具名[ ] ・常用ではないが併用する補装具名[ ]
ケ	障害区分6～11(切断は除く)で片足または両足で補装具なしで立つことが (可能・不可能)

切断(欠損を含む)部位を記入してください。

イ～キについて( )内の該当する方を「○」で囲んでください。

「水をかく動作」を、片手(健側)のみか麻痺側の上肢も使用するかで判断してください。

日常生活で補装具を使用している方は、常用及び併用している補装具について記入してください。

## 《設問の解説》

### アについて

切断部位を記入してください。障害区分1～11(切断・機能障害)を確認する際の参考とします。

※「切断・欠損」の方で、手帳障害名が「機能障害」と成っていることがあります。切断の場合はアの( )に部位を記入してください。

### イについて

障害区分13～16(脳原性麻痺以外の車いす使用者)を確認する際の参考とします。

※ 座位バランスの見方は、＜参考＞障害区分の解説・[障害区分の説明]を参考にしてください。「へそ」の位置の知覚レベルの有無が一つの判断となり、背もたれのない座位の状態で両手の支えなく座ることができる方は、バランスは「良好」となり、障害区分は「座位バランスあり」となります。支えの必要な方は、バランスは「不良」となります。座位バランスにより該当するほうを「○」で囲んでください。

### ウ、エについて

障害区分17～21脳原性麻痺(脳性麻痺、脳血管障害、頭部外傷、その他脳に起因する障害)の方は記入してください。

- 「ウ」の「上肢に中等度以上の不随意運動や協調性低下」とは、自己の意志に反して勝手に上肢が動いたり、上肢は動くが運動のコントロールができず、目的どおりに動かせないなど、日常生活に著しい障害があることをいいます。
  - 「エ」は、上肢の関節に著しい制限があり、日常生活に著しい障害があれば「ある」を、それ以外は「ない」を「○」で囲んで下さい。
- ※手帳の障害名に四肢障害のある方で、車いすを自分で操作ができず、日常生活に介助の必要な場合は「著しい障害」が「ある」となります。

#### オについて

走れるかどうか、障害区分17～21（脳原性麻痺）を区分する際の参考とします。

#### カについて

脳原性片側障害の方で、麻痺側上肢で水がかけて推進力になるかどうかの確認です。

#### クについて

日常生活で使用している補装具があれば、記入してください。  
ある場合は、常用している補装具と併用（長距離は車いす使用等）している補装具があれば記入してください。運動機能、移動能力等を把握するための参考とします。

#### ケについて

障害区分6～11の切断者以外の方の片足または両足で体重支持ができるかどうかにより、下肢完全と不完全の区分の参考とします。  
※長下肢装具がないと立てない場合は、「完全」となります。

#### 【参考】

- ※ 1 手帳に「体幹機能障害、四肢体幹機能障害」等の記載があり、脳原に原疾患がある場合には、肢体3（障害区分17～21）になります。
- 2 車いすを使用している脳原性麻痺で手帳に「四肢体幹機能障害」等の記載がある場合で、設問ウ、エが「ある」場合は区分番号17、「ない」場合は区分番号18の可能性あります。
- 3 設問オが「不可能」、設問ウが「ある」場合は区分番号17、設問オが「不可能」、設問ウが「ない」場合は区分番号18、設問オが「可能」で設問ウが「ある」場合は、区分番号21の可能性あります。
- 4 車いす、杖または松葉杖を使用している場合は、区分番号18の可能性もあります。
- 5 片側障害で、麻痺側の片上肢でストローク動作ができない場合（健側のみで行う）は区分番号19、麻痺側の片上肢でも少しはストローク動作ができ両上肢で泳ぐことができ、設問オ「走ることが不可能」な場合は区分番号20

の可能性がります。設問オ「走ることが可能」な場合は、区分番号21の可能性がります。

(3) 「㊸出場種目」

大会競技・種目」から選び、第1希望欄にコード番号及び自己記録を記入してください。

また、4×50mリレー及び4×50mメドレーリレーの2種目があります。それぞれの種目において、1選手団につき1つの男女混合チーム（補欠を含み6名以内）とし、「リレー種目参加申込書」（様式B）に記入してください。また、当日出場する4名のうち少なくとも1名女子を含むよう編成してください。

チームは水泳に参加する選手のみで編成するものとし、参加申込後のチーム編成（選手）の変更は認めません。

なお、同じ選手が4×50mリレー及び4×50mメドレーリレーの両方に出場することはできません。

㊸ 出 場 種 目							
希望する種目を身体障害の方は<別表1>、知的障害の方は ☆印の中から選び、種目番号、種目名と自己記録を記入ください。							
		種目番号	種目名		リレー希望		
希望種目							
自己記録							
	身体	知的	種目番号・種目名		身体	知的	
自由形	別表	☆	1 25m	背泳ぎ	別表	☆	3 25m
		☆	11 50m			☆	13 50m
平泳ぎ	1参照	☆	2 25m	バタフライ	1参照	☆	4 25m
		☆	12 50m			☆	14 50m
				リレー		☆	30 4×50mリレー
				-		☆	40 4×50mメドレーリレー

種目を選び、種目番号・競技名を記入し、

下段に自己記録を記入してください。

リレー出場希望者はリレー番号の30または40を記入してください。

<自己記録の記入例>

時間の記入例 1分21秒13

※1/100秒の部分は2桁で記入してください。

例) 28秒05 → 28秒05

28秒5 → 28秒50

(4) 「⑬特記事項」

該当する番号を「○」で囲み、該当事項を記入してください。

<b>⑬ 特記事項</b> 下記の項目の該当する番号に必ず○印を付け、必要事項をご記入ください。	
1 特になし	
2 水中スタートを希望(障害区分番号8,9,11,13,14,15,17,18,19,22は必ず水中スタートのため記入不要)	
・入退水時に補助を希望	
3 競技役員(補助員含む)による補助	
4 許可された者による補助(理由 )	
・規則上スタート時の補助を認められている者(11,13,17,19,22)で補助を希望	
5 競技役員(補助員含む)による補助	
6 許可された者による補助(理由 )	
・障害区分23であり、ターンやゴールの際に、合図棒による合図	
7 競技役員(補助員含む)による合図	
8 許可された者による補助(理由 )	
・障害区分24であり、ターンやゴールの際に、合図棒による合図	
9 競技役員(補助員含む)による合図	
10 許可された者による補助(理由 )	
11 障害区分22の方は使用する浮具の種類( )	
12 プールサイドでの移動のために、貸出用車いすの利用を希望	
・聴覚・音声・言語等の障害のある方で	
13 手話通訳を希望	
14 要約筆記を希望	
15 競技規則に基づき競技場内に同伴する介助者の入場を希望 (その理由)	
..... ..... .....	
※背泳ぎに出場希望の選手でバックストロークレッジの使用を ( 希望する ・ ← 希望しない )	

2～15に該当する項目のない場合  
「特になし」

プールに入るとき、出るときに介助の  
必要な場合は3か4

障害区分を確認の上、補助の必要な場合  
5か6を選んでください。

視覚障害の方への支援です。障害区  
分23

の方は必ず合図棒による合図が必  
要。

「浮具使用」で使用できる浮具は、  
浮力を補助するためのスイミング  
ヘルパーやアームヘルパーなど  
です。

いずれか1つを選択して  
ください。

背泳ぎに出場希望の選手は  
いずれかを選択してください。

●競技規則に基づき、障害区分26の方で、競技エリアに同伴者の入場を希望される方は、「その理由」欄に同伴者が必要な理由を具体的に記入してください。

※同伴・介助者の入場が許可される障害区分は、水泳競技実施要領参考で確認してください。



### 3. アーチェリー

#### (1) 「⑩障害区分」

主たる障害（「⑥障害の分類」で記入した障害）の該当する区分番号を1つ選び、番号を「○」で囲んでください。

⑩ 障害区分			
主たる障害の該当する番号1つのみに○印を付けてください。			
肢体不自由	脳原性麻痺以外で車いす常用	1	第8頸髄まで残存
		2	その他の車いす
	切断・機能障害	3	上肢障害
		4	下肢障害(いす、車いす使用を含む)
		5	体幹
	脳原性麻痺	6	脳原性麻痺
聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害		7	聴覚障害
内部障害		8	ぼうこう又は直腸機能障害

「⑥障害の分類」で選択した障害が

「肢体」→ 1～6から1つ

「聴覚・平衡、音声・言語、そしゃく機能障害」

→7

「内部」→ 8

を選択します。

※主障害が視覚障害、知的障害はアーチェリーには出場できません。

#### (2) 「障害区分確認事項」

障害区分が肢体不自由1～6の方は、障害区分確認事項の該当する箇所を「○」で囲み、必要事項を記入してください。

障害区分確認事項	
障害区分1～の6方は、該当する箇所に○印を付け、該当事項を必ずご記入ください。	
ア 切断	(部位 )
イ 脊髄損傷	(四肢麻痺・対麻痺)
ウ 日常生活で使用している補装具(装具・車いす・杖など)がある。	
・常用の補装具名[ ]	
・常用ではないが併用する補装具名[ ]	

切断部位を記入してください。

該当する方を○で囲んでください。

日常生活で補装具を使用している方は、常用と併用している方は併用の補装具名を記入してください。

#### 《設問の解説》

アについて

切断部位を記入してください。区分番号3、4を区分する際の参考とします。

イについて

区分番号1、2（脳原性麻痺以外で車いす常用）を確認する際の参考とします。

ウについて

日常生活で使用している補装具（車いす、下肢装具、義足など）があれば、常用の補装具と常用ではないが併用する補装具を分けて記入してください。運動機能、移動能力等を把握するための参考とします。

【参考】

- ※ 1 下肢切断で立位あるいはいすを使用して競技を行う場合は、障害区分4となり、日常的に車いすを常用している場合は、障害区分1または2となります。
- 2 車いす使用の有無にかかわらず、脳原性麻痺の方は区分番号6になります。

(3) 「⑪出場種目」

出場希望種目を1種目選び、番号を「○」で囲んでください。自己記録記入欄に記入してください。

⑪ 出 場 種 目		
参加希望する種目を1種目選び、番号に○印を付け、その種目の自己記録をご記入ください。		
【番号・種目】	自己記録	点
1	リカーブ50m・30mラウンド	
2	リカーブ30mダブルラウンド	
3	コンパウンド50m・30mラウンド	
4	コンパウンド30mダブルラウンド	

(4) 「特記事項」

該当する番号を「○」で囲んでください。特記事項がない場合は「1 特になし」を「○」で囲んでください。

⑬ 特記事項

下記の項目の該当する番号に必ず○印を付け、必要事項をご記入ください。

- 1 特になし
- 2 障害区分1で、介助者の入場が必要  
(介助内容: )
- 3 障害区分1以外で、介助者の入場が必要  
(その理由)  
.....  
.....  
.....
- 4 障害区分1で手に補助具(リリースイット等の発射装置)使用を希望
- 5 競技中、車いすを使用する。
- 6 競技中、いすを使用する。

・聴覚・音声・言語等に障害のある方で

- 7 手話通訳を希望
- 8 要約筆記を希望

障害区分1以外で、介助者の入場を希望される方は、「その理由」を具体的にご記入ください。

いずれか1つを選択してください。

## 4. 卓球

### (1) 「⑩障害区分」

主たる障害（「⑥障害の分類」で記入した障害）の該当する区分番号を1つ選び、番号を「○」で囲んでください。

⑩ 障害区分					
主たる障害の該当する番号1つのみに○印を付けてください。					
上肢	1	片上肢障害	脳 原 性 麻 痺	10	車いす使用
	2	両上肢障害		11	杖または、松葉杖使用
下肢	3	片下腿切断または、片下肢不完全		12	上肢に不随意運動あり
	4	片大腿切断または、両下腿切断		13	上肢に不随意運動なし
		片下肢完全または、両下肢不完全		14	片側障害
	5	片下腿および片大腿切断 両大腿切断または、両下肢完全	障 視 覚	15	アイマスク有り
				16	アイマスク無し
脳 原 性 麻 痺 以 外 で 車 い す 常 用	6	体幹	機 能 障 害 、 聴 覚 障 害 、 視 覚 障 害 、 平 衡 機 能 障 害 、 そ し よ う 語 機 能 障 害	17	聴覚障害
	7	頸髄損傷			
	8	下肢麻痺で座位バランスなし			
	9	その他の車いす	障 知 害 的	18	知的障害

「⑥障害の分類」選択した障害が「肢体」→1～14から選択

「視覚」→15・16から選択

「聴覚・平衡、言語・音声・そし  
やく機能」→17

「知的」→18

### (2) 「障害区分確認事項」

障害区分1～14（肢体1～3）の方は、障害区分確認事項の該当する箇所を「○」で囲み、該当事項を記入してください。



## キについて

日常生活で使用している補装具（車いす、下肢装具、義足など）があれば、常用の補装具と常用ではないが併用する補装具を分けて記入してください。運動機能、移動能力等を把握するための参考とします。

### 【参考】

- ※ 1 下肢切断で、立位で競技を行う場合は、切断の部位等により障害区分3～5となり、下肢障害で競技中のみ車いす使用の場合、障害区分9となります。
- 2 脳原性麻痺の方は障害区分10～14となり、車いすを使用している場合は障害区分10、杖・松葉杖を使用している場合は障害区分11となります。
- 3 設問ウが「ある」場合は、障害区分12、「ない」場合は障害区分13となります。
- 4 日常生活や移動に杖や松葉杖を使用しない場合は、障害区分11ではなく、12～14となります。

### (3) 「⑪出場種目」

出場希望種目を1種目選び、番号を「○」で囲んでください。

なお、サウンドテーブルテニスは、障害区分15（アイマスク有り）の方が出場できます。

⑪ 出 場 種 目		
障害区分15の方は「2 サウンドテーブルテニス」、その他の方は「1 一般卓球」に○印を付けてください。		
身体	知的	種目番号・種目名
☆	☆	1 一般卓球
障害区分 15		2 サウンドテーブルテニス

### (4) 「⑫競技中に使用する補装具」

障害区分1～14に該当する方のうち、補装具を使用して競技を行う方は「有」に○印をつけ、該当する番号を「○」で囲んでください。移動の時のみ使用する補装具は「無」となります。

なお、義肢・装具等を使用している方は、使用する補装具の名称を13（ ）内に記入してください。

⑫競技中に使用する補装具等（有・無）			
有無を必ず記入してください。			
「有」の方は該当するものを○で囲んでください。			
歩行杖等	1 杖	2 松葉杖(1本)	3 松葉杖(2本)
	4 クラッチ(1本)	5 クラッチ(2本)	
車いす等	6 両手駆動		7 片手駆動
義肢・装具等	13 ( )		

(5) 「特記事項」

該当する番号を「○」で囲んでください。特記事項がない場合は「1 特になし」を「○」で囲んでください。

- S T Tに出場する選手は、5に○印をつけてください。
- 手話通訳と要約筆記の希望については、どちらか1つを選択してください。
- 介助者の入場を希望する方は、「その理由」を具体的に記入してください。

⑬ 特記事項	
下記の項目の該当する番号に必ず○印を付け、必要事項をご記入ください。	
1 特になし	<p>球を拾うことが難しい上下肢の障害、車いす使用者、視覚障害の方等で「球拾い」を希望する場合、○をつけてください。</p> <p>いずれか1つを選択してください。</p> <p>介助者が必要な理由を具体的に記入してください。</p>
2 試合中のボールパーソンを希望 * STT出場選手は必ず○印をつけてください。	
・聴覚・音声・言語等に障害のある方で	
3 手話通訳を希望	
4 要約筆記を希望	
5 特段の理由により競技場内に同伴する介助者の入場を希望する (その理由) ..... ..... .....	

## 5. フライングディスク

### (1) 「⑩障害区分」

⑩ 障害区分(競技区分)	
出場を希望する競技区分の番号に○印を付けてください。	
1	座位
2	立位

障害区分は、ディスクを投げる時の姿勢となります。

「座位」とは、車いすやいすに座って投げる場合や地面(床)に座った位置から投げる場合です。移動には、車いすを使用するが、投げる時は立って投げる場合は「立位」となります。

座位の区分の選手が、立って投げると失格となりますのでご注意ください。

### (2) 「⑪出場種目」

「アキュラシー(コード番号1、2のうちいずれか1種目)」

「ディスタンス(コード番号11～14のうちいずれか1種目)」の2種目まで参加できますので、希望するコード番号に「○」を付け、自己記録を記入してください。

※ 「アキュラシー」または「ディスタンス」のどちらか一方のみの出場を希望される場合は、出場しない方の種目欄に「X」を入れてください。なお、その場合は、全国大会選考対象外となります。

<自己記録の記入例>

アキュラシーの記入例                      9 投

ディスタンスの記入例                      3 5 m 4 7 cm

記入例1) 「アキュラシー」と「ディスタンス」の両方に出場する場合。

⑪ 出場種目	
希望する種目をアキュラシー及びディスタンスから1種目ずつ選択し、コード番号に○印を付け、自己記録をご記入ください。	
コード番号・種目	
[アキュラシー]	
①	ディスリート・ファイブ
2	ディスリート・セブン
自己記録	( 9 投 )
[ディスタンス]	
11	レディース・シティング : 座位女子
12	メンズ・シティング : 座位男子
13	レディース・スタンディング : 立位女子
⑭	メンズ・スタンディング : 立位男子
自己記録	3 5 m 4 7 cm

「ディスリート・ファイブ」または「ディスリート・セブン」のいずれか1つの番号を「○」で囲む。

自己記録を記入する。

「レディース・シティング」、「メンズ・シティング」、「レディース・スタンディング」または「メンズ・スタンディング」のいずれか1つの番号を「○」で囲む。



記入例2)「アキュラシー」のみに出場する場合。

⑩ 出場種目	
希望する種目をアキュラシー及びディスタンスから1種目ずつ選択し、コード番号に○印を付け、自己記録をご記入ください。	
コード番号・種目	
【アキュラシー】	
1	ディスリート・ファイブ
2	ディスリート・セブン
自己記録 ( 9 投 )	
【ディスタンス】	
11	レディース・シティング : 座位女子
12	メンズ・シティング : 座位男子
13	レディース・スタンディング : 立位女子
14	メンズ・スタンディング : 立位男子
自己記録 ( m cm )	

「ディスリート・ファイブ」または「ディスリート・セブン」のいずれか1つの番号を「○」で囲む。

自己記録を記入する。

「ディスタンス」の種目欄に「×」を入れる。

記入例3)「ディスタンス」のみに出場する場合。

⑩ 出場種目	
希望する種目をアキュラシー及びディスタンスから1種目ずつ選択し、コード番号に○印を付け、自己記録をご記入ください。	
コード番号・種目	
【アキュラシー】	
1	ディスリート・ファイブ
2	ディスリート・セブン
自己記録 ( 投 )	
【ディスタンス】	
11	レディース・シティング : 座位女子
12	メンズ・シティング : 座位男子
13	レディース・スタンディング : 立位女子
14	メンズ・スタンディング : 立位男子
自己記録 85 m47 em)	

「アキュラシー」の種目欄に「×」を入れる。

「レディース・シティング」、「メンズ・シティング」、「レディース・スタンディング」または「メンズ・スタンディング」のいずれか1つの番号を「○」で囲む。

自己記録を記入する。

### (3)「特記事項」

該当する番号を○で囲んでください。特記事項がない場合は「1 特になし」をで囲んでください。

⑬ 特記事項

下記の項目の該当する番号に必ず○印を付け、必要事項をご記入ください。

- 1 特になし
- 2 左腕で投げる
- 3 視覚障害を有しているため、音源を必要とする
- 4 競技中(座位)に車いすを使用する (持参・借用希望)
- 5 競技中(立位)に歩行補助杖を使用
- 6 競技中(座位)投げる時にいすを使用する
- 7 競技では車いすを使用しないが、招集から解散までの待ち時間や移動のために車いすが必要 (持参・借用希望)

・聴覚・音声・言語等に障害のある方で

- 8 手話通訳を希望
- 9 要約筆記を希望
- 10 特段の理由により、競技場内に同伴する介助者の入場を希望

(その理由)

.....

.....

.....

.....

※ディスタンス競技に使用する車いす・いすのシートの高さは75cm以下

いずれか1つを選択してください。

介助者が必要な理由を具体的に記入してください。

※移動(車いす、視覚障害)の介助等

## 6. ボウリング

(1) 「⑩障害区分」

1を○で囲んでください

⑩ 障害区分	
1	知的障害

(2) 「⑪出場種目」

種目は、通常レーンのみですので、「1」を「○」で囲み、アベレージを記入してください。

⑪ 自己記録	
アベレージを記入してください	
1	ボウリング  アベレージ <input type="text"/> ← 点 ← 平均した1ゲームの点

●自己記録欄にアベレージをご記入ください。たとえば2ゲームの合計点（昨年の県大会の記録等）の場合は、2で割り1ゲームあたりの平均点としてください。

(3) 「⑫シューズについて」

シューズについて次のとおり記入してください。

「1 持参する」又は、「2 借用を希望する」のいずれかを○で囲み、借用の場合は、サイズ（cm）を記入してください。

\*なお、シューズの使用料は参加選手の負担になります。

⑮ シューズについて	
下記の項目の該当する番号に○印を付け、必要事項をご記入ください。	
シューズについて	
1	シューズを持参
2	シューズ借用を希望(希望者はサイズを記入) ※【 サイズ (      . cm) 】

靴の希望サイズを記入してください。  
左右違う方は、どちらかのサイズを記入してください。当日調整します。

(4) 「⑬特記事項」

該当する番号を「○」で囲んでください。特記事項がない場合は「1 特になし」を「○」で囲んでください。

2または3を希望する場合は、どちらかを選んでください。

⑬ 特記事項	
下記の項目の該当する番号に必ず○印を付けてください。	
1	特になし
・重複障害で聴覚・音声・言語等に障害のある方で	
2	手話通訳を希望
3	要約筆記を希望

(5)補装具の使用について

杖や車いすを使用して投球する方は、使用補装具を選んでください。車いすにはタイヤカバーの装着が規則で決まっています。杖等の方はボウリング場の床の保護のために、杖先を拭いていただくようになります。

補装具の使用について	
競技中に使用する補装具等 ( 有 ・ 無 )	
「有」の方は、該当するものに○、その他の方は補装具名を記入してください。	
1	杖
2	車いす
3	その他(                      )

※車いすを使用の方は、タイヤカバーの装着、杖使用の方は杖先にカバーが必要です。